



## 和解と平和の職人 シスター マリア・トロンカッティ

### シート1 Sr.マリア・トロンカッティの靈的母性

今月は、Sr.マリア・トロンカッティの母性についての詳細な研究が提案されています。サレジオ修道士コジモ・コッスがビデオでこれを証言しています。この資料には、マリア・トロンカッティからコジモ・コッス氏に宛てて書かれた手紙と、その同じテーマに関するSr.マリアの伝記の一節が掲載されています。

「マードレシータ ブエナ(善いお母さん)」:このように、Sr.マリア・トロンカッティはシユアルの人々の間で知られ、彼女は愛をもって奉仕し、44年間、サレジアン・シスターズの宣教女として彼らと聖性の道を共にしました。エクアドルのジャングルで、彼女の靈的な母性は、彼女の歩みの中で出会うすべての人々に深く感じとられました。彼女の人生、彼女の仕事、そして彼女の言葉は、イエスに深く根ざした靈的な母性を放ち、祈りによって養われ、彼女の中で鼓動する聖母マリアの母性によって養われました。



#### 神の言葉

聖母マリアの母性的な心の深さは、カナでの結婚式の福音書の記述で明らかです。心配りが行き届いていて愛情深い母親として、彼女は躊躇なくイエスに頼み、結婚式の祝宴のために新郎新婦がもっとぶどう酒を飲む必要があることについて何かをするように頼みます。扶助者聖母の娘として、Sr.マリア・トロンカッティはまた、彼女が世話をした人々の善のために完全に与えられた母性的な心、一つの大きな願望をもっていました。それは彼ら全員をイエスに導くことでした。

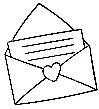
三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。(ヨハネによる福音 2章 1-11節)



Video: [Suor Maria Troncatti madre](#)



## Sr. マリア・トロンカッティの手紙より



### Sr.マリア・トロンカッティのコジモ・コッス修道士への手紙(No.81)

これは、Sr.マリアが亡くなる前夜に書いた最後の手紙で、彼女の「孫」であるサレジオ修道会のコジモ・コッス修道士に零名日の祝いの挨拶を残すために、キトへの出発前に書き残したものです。この資料は、彼女のアブエリータ(おばあちゃん)としての大きな心をさらに表現しており、常に精神に翼を与え、困難を励ますことに心を配っています。その手紙は、Sr.マリアの棺のそばで涙を流しながら祈っていた若いサレジオ会修道士に届けられました。

1969年8月24日

尊敬し親愛なるコジモ氏、

わたしはこの短い手紙で私のいとまごいを送ります。あなたに、少し早いのですが、幸福な霊名日のお祝いを送るためです。今日、8月24日から、百合、すみれ、ひな菊などの霊的な花束を受け取ってください。わたしたちの善良なイエスと扶助者聖マリアが、これらの花の美德をあなたに与えてくださいますように。それも豊かに、あなたの人生の終わりまで「セクラ セクロールム(世々に至るまで)」。ちょっとしたご褒美:必要なものを買ってください。それがごまかしにならないように、管区長様に報告し、それ以上のことはなさらないでください。わたしの黙想会の日々に、わたしの哀れな霊魂のためという意向で祈ってくださるようお願いいたします。イエス様万歳!あばたを尊敬するあなたのおばあちゃんより。

シスター マリア・トロンカッティ (FMA)

(CIEZKOWSKA Sylwia [辺裕、『エクアドルのFMA宣教女であるシスター マリア・トロンカッティの手紙』扶助者聖母会 ローマ 2013年)。



### Sr. マリア・トロンカッティの伝記より

「……コジモ修道士へのもう一つのしるしは手紙でした。Sr. ヴィットーリアがそれを彼に渡し、彼はそれをSr. マリアの死後の声として読みました。しかし、それは単なる死後の声ではありませんでした。その声は、かつてないほど生き生きと響き、躍動していました。Sr. マリアは、彼の霊名日のために彼に手紙を書きました。彼は一ヶ月前に、正確には彼女の死の前夜に彼に手紙を書いていたことに注意しましょう。聖コスマと聖ダミアンの典礼上の祝日は9月26日に行われます。そして彼女は8月24日に書きました。どうしてでしょう。

祝いの言葉には「霊的な百合、すみれ、ひな菊の花束」が添えられていました。手紙には、「私たちの善良なイエスと扶助者聖マリアが、これらの花に象徴される徳を、世々にいたるまで、つまりあなたの人生の終わりまで豊富に与えてくださいますように」と書かれていました。それから彼女は「ささやかな敬具」を書いています。とても具体的なお褒美、つまり封筒に詰められた300スクレです。「...彼が必要なものを買うために」Sr. マリアは、自分の手紙が彼の「霊名日の前夜」に受取人に届けられることを望んでいました。それどころか、彼女の死の夜に届けられました。

その前日、手紙が書かれたとき、コジモ修道士とSr. マリアの間で静かな会話が交わされていました。それは日曜日でした。しばらくそこにいて、座っておしゃべりをすることができました。「私たちはさまざまなことを話し合いました」と若いサレジオ会員は言います。私たちは病院のスタッフ、少女たち、連盟、焼けた家について話しました。彼女は、神父を生きのまま殺してしまいたいと思うほど悪い人々がどうしているのか理解できませんでした。」私は彼女に、血栓症にかかった父のことを話しました。そして彼女は私に言いました:「彼がここの病院に来ることができたなら、私は彼を治します...」。それから彼女は私にオレンジジュースを持ってこさせました。それは世界中のどの飲み物よりも彼女が好む飲み物でした。」

(コリーノ・マリア 『一つのはいの恵みはすべて与えられました。アマゾンの密林の宣教女 マリア・トロンカッティ』エレディチ、ロイマン 2012年, pp.463-464)。



## 振り返りのために

### 大人たちのために

1. コジモ修道士への手紙や、シユアルの人々の間でのサレジアンの宣教女としての彼女の人生のさまざまな出来事に表現されているように、Sr.マリア・トロンカッティの霊的な母性を特徴づけているもの何でしょうか。
2. わたしたちの文化や文脈において、わたしたちが真の応えとしての霊的な母性/父性に対して、若者の現実はどのような挑戦を示しているのでしょうか。  
今日のわたしたちの生活と使命において、Sr.マリア・トロンカッティの霊的な母性を模倣するために、わたしたちはどうあるべきか、あるいは何をすべきでしょうか。

### 若者たちのために

3. 今日のサレジアン・シスターズやあなたたちのサレジオの教育者との間で、霊的な母性/父性についてあなた方が具体的に体験したことは、どのようなことですか。
4. 今日の若者は、Sr.マリア・トロンカッティのような霊的な母性を経験するために、どのような側面が必要なののでしょうか。



## 祈りのために

### マードレ キアラ・カツオーラのチルコラーレ 1046号の言葉に基づいた祈り

Sr.マリア・トロンカッティのように、わたしたちに託された人々の間でいのちを生み出すことができる恵みを求めましょう。

善良でいつくしみ深い父よ、

Sr.マリア・トロンカッティの生涯において輝いていたあなたの存在に感謝いたします。

彼女は、その命、身振り、そしてあなたに満ちた言葉で、傷ついた人々に身を捧げ、特にエクアドルのジャングルで、すべての子どもたちに対して善き母として、

あなたの愛を証しました。

彼女のように、

助けと希望を必要としている人々に常に手を差し伸べ、  
わたしたちに委ねられた人々の体と心を気遣うための恵みを  
わたしたちにお与えください。

今日、わたしたちの教育と宣教の使命において、

霊的な母となるためのすべての努力を祝福してください。

わたしたちが大切にしている若者たちのニーズに目を開き、  
勇気と大胆さで心を満たし、彼らに応えるためにです。

Sr.マリア・トロンカッティの生涯のように、

わたしたちの母性的な心が、

あなたの愛をすべての人に放射し続けることができるように、  
常にわたしたちをあなたに引き寄せてください。

わたしたちは、これらすべてを、わたしの主であるキリストのために、  
あなたがたに求めます。アーメン。      アヴェ・マリア。。。